

# 日本医学教育学会第12期（1997～1999年）の活動<sup>\*1</sup>

堀 原 一<sup>\*2</sup>

## 1. 第12期に特筆すべき事項

わが国のみならず世界的にも、医学教育改革が急速に進行した。それに伴って日本医学教育学会の使命が質的に変わるとともに増大し、活動が活発になった。

第12期の役員および業務担当を表1に示す。

### 1) 会員増と充実

それを反映して、個人会員は前期末1,094名から第12期末1,470名に、学生会員は21名から55名に、機関会員は111機関（うち大学59校）から245機関（うち大学79校）に倍増、賛助会員は20件28口から39件57口に増加した。

名誉会長は牛場大蔵氏に日野原重明氏が加わった。名誉会員は本会の設立当初から長年にわたり副会長をつとめられた中川米造氏が1997年9月30日逝去されたのが特筆されるが、18氏から30氏に、特別会員は5氏から7氏に増加した。

### 2) 財政の安定

会員増に呼応して毎年繰越金が増加し、第12期末には約4,000万円となって財政の安定を見ることができた。

### 3) 創立30周年記念事業

1999年8月、本学会創立30周年を迎えた。1998年7月の第30回大会をはじめとして、機関誌『医学教育』は1999年第30巻を数え、別冊として4年ごとに発行してきた『医学教育白書1998年版』を、会員相互交流のため3年ごとに発行していた『会員名簿1998年版』を、それぞれ第30回大会に合わせて刊行した。

また、30周年記念事業の1つを日本学術会議創立50周年に合わせてFaculty Developmentをテーマに、1999年2月3～5日、環太平洋医学教育シンポジウム'99（Pan-Pacific Symposium on Medical Education〈PaPaSME〉'99）を日本学術会議講堂で開催した。そのProceedingsを「医学教育改革へのあゆみ1989～1998」とともに『医学教育』第30巻・第4巻を創立30周年記念特集として、1999年8月刊行した。

### 4) 日本医学会に加盟

念願の日本医学会に第90番目分科会として、1997年4月に加盟した。1999年4月には第25回日本医学会総会（東京、高久史磨会頭）に学会として正式に参加した。

### 5) 機関誌『医学教育』の制作・販売元の倒産

第12期末の1999年11月、長年制作・販売を担当してきた篠原出版株式会社が倒産したので、急遽善後策に追われ、第13期の機関誌継続発行に対応することになった。

## 2. 第12期に始まった活動

大学改革、わけても医学教育に関しては、大学審議会の諸答申、1996年6月の21世紀医学・医療懇談会の第1次報告「21世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して」、1999年2月の同懇談会の第4次報告「21世紀に向けた医師・歯科医師の育成体制の在り方について」および医師国家試験の改善と卒後臨床研修2年間の必修化の決定に呼応して、わが学会に新たな活動が開始された。その主な新しい活動は次のようであった。

### 1) 学会教育委員会協議会

日本医学会分科会に加盟したのを機会に、ほかの諸分科会のほとんどすべてに設置されている教育委員会（あるいはそれ相当）に呼びかけ、情報交換と連携を図る協議会を設置した。

<sup>\*1</sup> Report of Events and Activities of Japan Society for Medical Education during the 12th Term 1997-1999

キーワード：創立30周年、日本医学会加盟、会員充実

<sup>\*2</sup> Motokazu HORI 第12期会長、筑波大学名誉教授

表1 役員および業務担当（敬称略）

会長：堀 原一  
副会長：細田 瑳一，尾島 昭次  
監事：石田 清，鈴木 淳一

事業担当\*：庶務；細田 瑳一，会計；尾島 昭次，日本医師会対応；橋本 信也，日本医学会対応；田中 勸，日本学術会議対応；橋本 信也，医学教育振興財団対応；紀伊國 献三，医療研修推進財団対応；岩崎 榮，臨床研修病院対応；今中 孝信，全国医学部長病院長会議対応；櫻井 勇，学会教育委員会協議会；西園 昌久，歯科医学教育関係；櫻井 勇，看護教育関係；畑正 正彦，国際関係；紀伊國 献三，教育ワークショップ；田中 勸，医学教育白書；齋藤 宣彦，医学教育用語辞典；徳永 力雄，医学生対応；藤崎 和彦，大会対応；藤崎 和彦，広報および幹事；庄司 進一

常置委員会\*：編集；尾島 昭次，選抜検討；櫻井 勇，卒前教育；神津 忠彦，医師国家試験検討；畑正 正彦，卒後臨床研修；津田 司，生涯教育；橋本 信也

ワーキンググループ\*：医学教育制度検討；高久 史磨，人間性教育；徳永 力雄，臨床能力教育；伴信 太郎，総合診療教育；今中 孝信，認定医・専門医問題検討；植村 研一，大学院教育；福井 次矢（庄司 進一），教育業績評価；櫻井 勇，医療制度の医学教育への影響検討；福間 誠之，教育技法；齋藤 宣彦，医学史教育；神津 忠彦，臨床疫学（EBM）教育；福井 次矢，在宅医療教育；鈴木 荘一，SP 養成者教育；藤崎 和彦

特別委員会\*：会則及び法人化検討；田中 勸，医学教育センター（仮称）に関する；橋本 信也，医学教育賞候補者選考；細田 瑳一

\* 委員長あるいは主任を挙げる

## 2) 医学教育用語辞典の編纂

医学教育に共通し理解を要する用語を選択し，解説を加える事典（ことてん）の編纂を開始した。

## 3) 広 報

「日本医学教育学会概要」を学会案内や入会申し込みの便のために毎年発行配布するほか，機関誌『医学教育』のニュースとアナウンスメントを強化し，ホームページ開設を準備した。

## 4) 卒前臨床実習

文部省科研費を得て，クリニカル・クラークシヨップの拡大実施を図る活動をした。

## 5) 卒後臨床研修カリキュラム

必修化に向けてのモデル研修目標を提案する作業を始め，研修医のワークショップを計画した。

## 6) 医学教育制度

医学教育の構造改革が進む中，学会としての意見をまとめた。

## 7) 臨床能力教育

主として OSCE の拡大実施のためのワークシ

表2 医学教育賞受賞者

### 1997 年度

牛場賞：鈴木 淳一，懸田賞\*：岡村 健二・大滝 純司，箕輪 良行

### 1998 年度

牛場賞：尾島 昭次，懸田賞\*：庄司 進一

### 1999 年度

牛場賞：西園 昌久，懸田賞\*：該当者なし

\* 医学教育振興財団の賞，学会で選考

ヨップを毎年開催した。

## 8) 大学院教育

医学基礎研究者育成の1つとして，医学における修士課程を調査した。

## 9) 教員・指導医の教育業績評価

困難とされてきた教育業績の評価ガイドラインを提案した。

## 10) 臨床疫学（EBM）教育

考え方，在り方を検討し，モデル・カリキュラムを作成した。

## 11) SP 養成者教育

標準模擬患者（SP）の需要に合わせてワークショップを開始した。

## 12) 医学教育センター（仮称）設置の促進

第16期日本学術会議の報告した同センター設置を目指して，日本医師会などと共同検討した。第32回大会（仙台）でパネルディスカッションを行った。

## 13) 医学教育ユニット（仮称）の集い

全国大学医学部（医科大学）に設置されている医学教育担当部門や部署の代表者が第31回大会を機に集合し，情報交換と連携を行うことになった。当時10数大学に設置されていたのがその後増加したとは言え，全国的組織の「医学教育センター」（仮称）の必要性は変わらないことを認識した。

## 3. 大会の開催

第29回（金沢医大），第30回（日本大），第31回（武蔵野赤十字病院）が開催された，詳細は次項参照。大会時の医学教育賞受賞者を表2に示す。